アプリケーションプログラム取扱説明　無線受信

インストール、操作は簡単です。
まず、受信機のUSBをPCに接続し、SETUPかCDの内容をフォルダにコピーし、ポート番号を設定するだけ。受信が開始します。

①動作環境
アプリケーションプログラム BodyCore.exe は Windows XP/SP2 以上の環境で動作します。
Windows7 が推奨 OS です。

② USB ドライバーのインストール
ダウンロードケーブルを USB 端子に差し込み、USB ドライバーをインストールして下さい。初めて使用する場合、Windows がドライバーの場所を聞いてきますので、添付の CD の場所を指定して下さい。CD の中にドライバープログラムが入っています。2回ドライバーのインストールが行われます。1回目はUSBをシリアルポートに変換するシリアルコンバータのインストールで 2 回目が USB そのもののドライバーのインストールです。
また、下記の USB チップのメーカーサイトからもダウンロードできます。
http://www.ftdichip.com/FTDrivers.htm
Windows7 の場合は自動的にインストールしますので、上記の操作はいりません。

③プログラムのインストール
CD 内のセットアッププログラムを起動して、その指示に従って下さい。
もし、うまくいかない場合は適当にフォルダを作成し、そこに CD の内容全てコピーして下さい。必要に応じてショートカットを作成して下さい。WinApp ＞ Package ＞ Support ＞ BodyCore.exe をダブルクリックするとプログラムが立ち上がります。
次にポートの番号の設定を行って下さい。ポート番号は USB ケーブルを差し込んだ状態でコントロールパネル > システム >ハードウェア>デバイスマネージャ>ポート (COM と LPT) でポート番号を確認できます。この番号をプログラムのポート番号へ設定して下さい。稀にポート番号が 16 以上の場合があります。このプログラムではポート 16 以上は使えないので、そのポート番号の上でダブルクリックしてプロパティを表示し、Port Settings の Advanced でポート番号を変更して下さい。

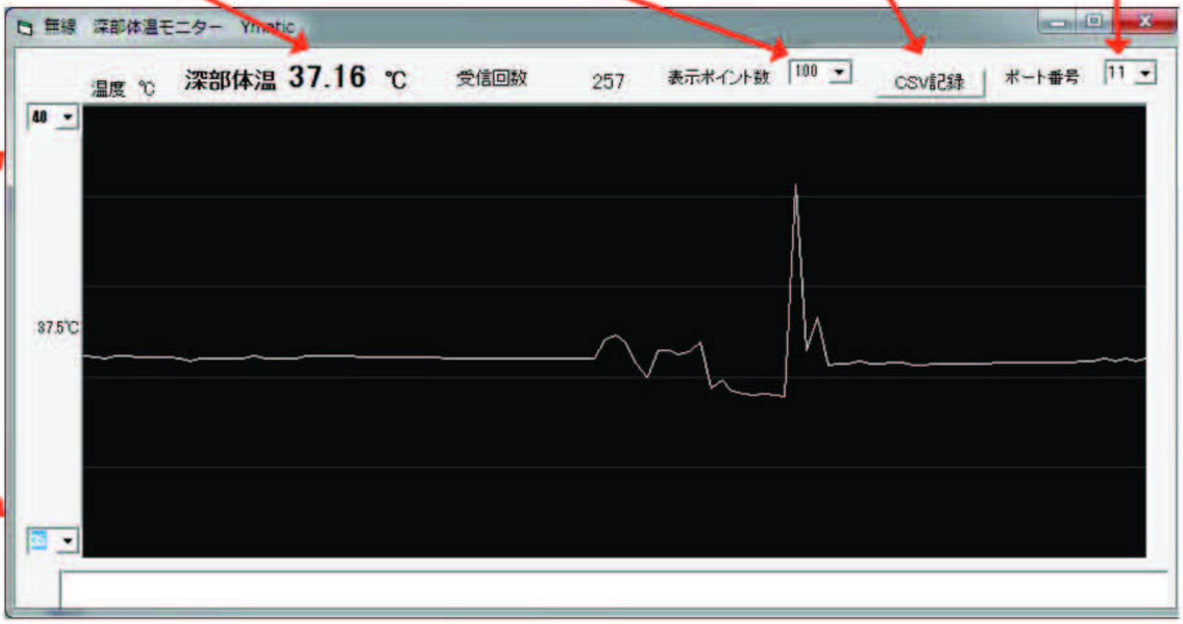
深部体温
耳に挿入して暫くは環境温が低い為、温度は不安定になります。

表示ポイント数
グラフ表示するポイント数を指定します。ポイント数を超えるとスクロールします。

CSV 記録
表示されたデータを CSV ファイル（Excel）で記録します。プログラムがあるフォルダにできます。
名前は日時から自動で作成されます。

USB のポート番号を指定します。

表示スケール調整
表示範囲を超える場合、細かく表示したい場合に上限・下限値を変更します。

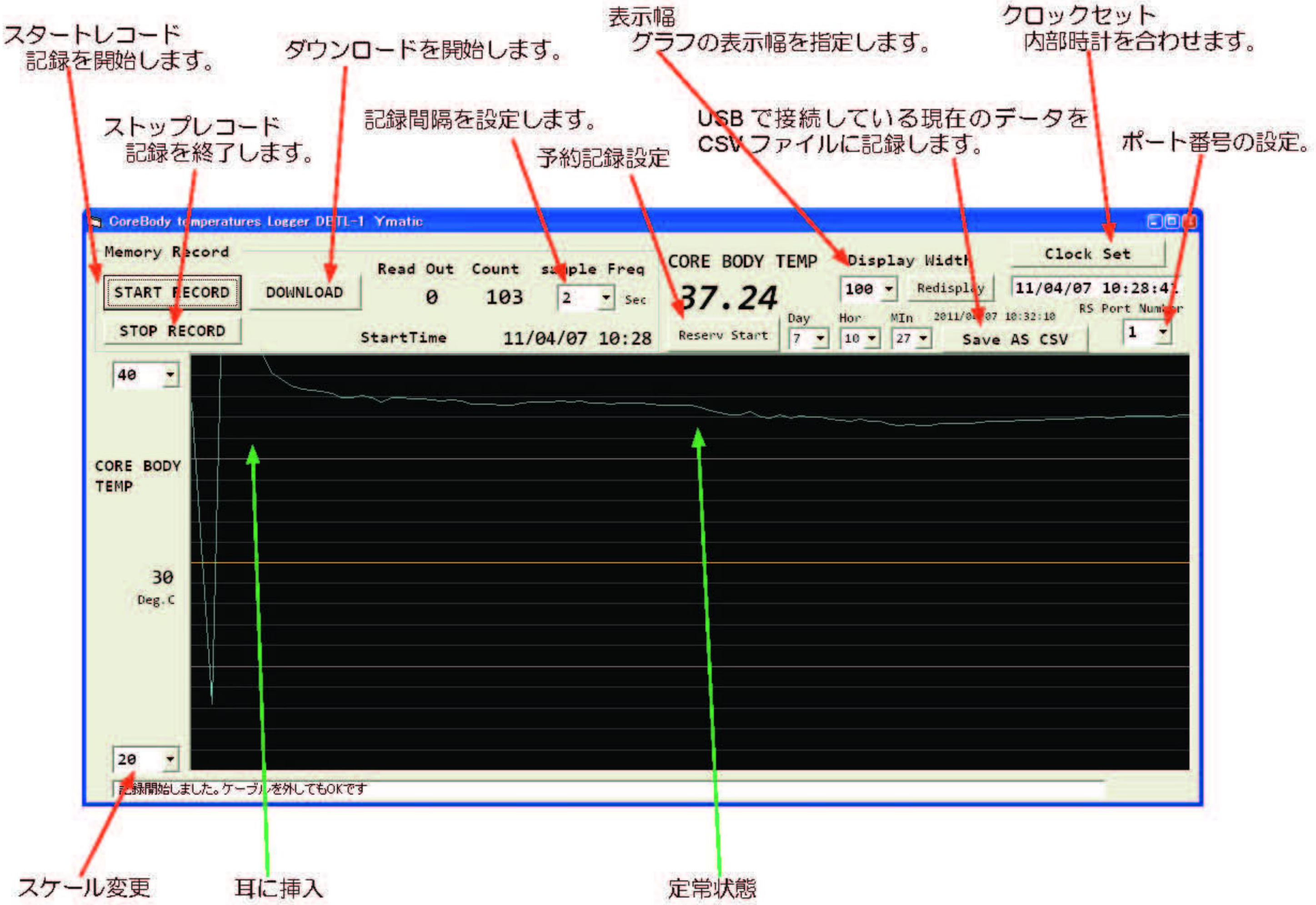


実際の測定データ：途中で波形が乱れているのは一度センサを耳から抜いたため。
表示スケール　40℃から 35℃まで、100 ポイント表示

■ご注意
本製品は電池駆動で、身体に取り付けても安全ですが万一の場合、当社は責任をとりません。

ロガー（レコーダ）オペレーション

PC と USB ケーブルで接続するとロガーになります。ポート番号を合わせてください。ロガー画面では記録間隔の設定や、内部クロックの時間合わせを行います。また、START RECORD を押すと内部メモリにデータを記録しますが、同時にリアルタイムでデータの表示が行われます。
この状態で本体に電池を入れ、USB ケーブルを外すと、単独でデータを記録が進行します。記録が完了し、データをダウンロードする場合は再び USB ケーブルを接続し、アプリケーション画面を立ち上げてください。ダウンロードケーブルを接続した場合、内部の記録は停止します。
この状態で DOWNLOAD ボタンを押すと、データが本体から PC に転送されます。データの転送が完了すると自動的にそのダウンロード時間をファイル名にした CSV ファイルが、プログラムと同じ場所に生成されます。



初期段階のグラフは室温を表示しており、外耳道に挿入すると、当初零接点温度測定用サーミスタの温度が低いので急激に温度が上がります。そのうち、サーミスタが外耳道の温度になるにつれて、深部体温が定常状態に近くなります。